

緩和ケア普及啓発に関する活動報告書

提出日 平成 28年 6月 30日

緩和ケア普及啓発活動についての報告

実施団体	
特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 厚生労働省委託事業 緩和ケア普及啓発事業	
企画名	
第 21 回日本緩和医療学会学術大会 ～あなたらしさに寄り添って～” 愛と思いやり・・・そしてユーモア・・・” 委託事業委員会企画 緩和ケア普及啓発事業(オレンジバルーンプロジェクト) 「緩和ケアの誤解は本当に解けるのか?～パブリックリレーションズから考える～」	
事前告知、募集の方法について(ポスター、チラシの配布など)	
学術大会のプログラムに掲載、公式ホームページおよび Facebook にて事前告知 学術大会中にチラシを配布	
当日の実施内容について	
日時(期間)	2016年6月18日(土) 15:45～17:15
実施場所	京都国際会館 第7会場 アネックス2
参加人数	約7,500名(学術大会全体の入場者数)
具体的な実施内容: 《プログラム》 1. 講演(質疑応答有) 15:45～16:45 座長: 上村 恵一氏(日本緩和医療学会 委託事業委員会委員長、市立札幌病院) 下山 理史氏(日本緩和医療学会 緩和ケア普及啓発 WPG 員長、名古屋医療センター) I. ～がんのピアサポート活動を通して「緩和ケアの誤解」について考える～ (NPO 法人ミーネット 花井 美紀氏) II. ～「緩和ケアの誤解は解けるのか」報道記者であり、がん経験者であり、がん患者に 寄り添う団体を運営する立場から。～ (日本テレビ、NPO 法人マギーズ東京 鈴木 美穂氏) III. ～がん対策基本法 10 周年の今年、「診断時からの緩和ケア」が常識の社会へ 明日の景色を創るパブリック・リレーションズのミッション～ (オスカー・ジャパン株式会社 笠井 玲美氏) IV. ～緩和医療・緩和ケアの public relations はどのようにあるべきか?～	

(大阪大学 平井 啓氏)

2. ディスカッション 16:45 ~ 17:15

座 長 : 上村 恵一氏、下山 理史氏

講演者 : 花井 美紀氏、鈴木 美穂氏、笠井 玲美氏、平井 啓氏

「緩和ケア」という言葉は、この10年で多くの人が「よく知っている」言葉となったにも関わらず、患者・家族だけでなく医療者ですら、“緩和ケア=終末期医療”という印象がぬぐえないのはなぜか。この誤解を解くために、様々な領域ではどんな“パブリック・リレーションズ (PR)”を行っているのか。

効果について(アンケートの結果など)

本企画では、記者であり、自身もがん経験者でありながら NPO 法人マギーズ東京を運営されている鈴木美穂さんを始めとする、各領域で PR 活動を精力的に展開されている方々に、その手法・工夫を披露いただいた。

緩和ケアの普及啓発にあたり、学会員の皆様さまが今日からできるパブリック・リレーションズと一緒に考える時間を設けることによって、今後の更なる緩和ケア普及啓発に向けた布石となったと思われる。